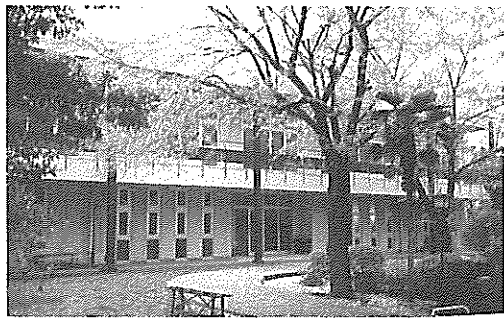




CBC

ニュース

中央聖書学校

これはまた私たちの教団の成長の今昔でもあるのです。十数本の苗木とも言える教会から、全国に分布する教団と成長しました。そのために多くの伝道者が中央聖書学校から「利鎌を持ちて勇み行かん。」主の命に従って各地に遣わされて行きました。福音宣教を使命とする私たちの教団の、成長発展のために

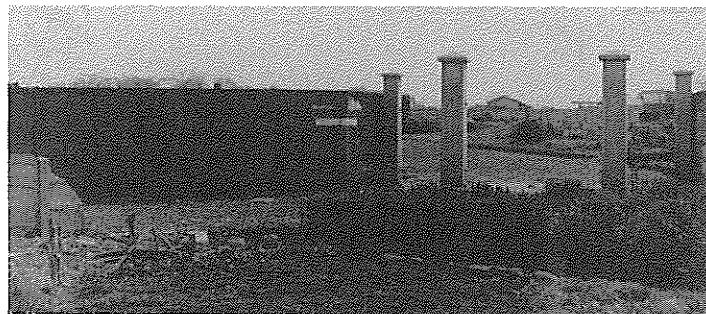


今昔物語

CBC後援会会長 佐伯 重幸

今は昔、焼け野原だった駒込の山も紫雲の漂う緑の森となりました。小枝を切って挿し木した珊瑚樹も今では、鳥を宿すほどの大木になりました。緑日の露店で買ってきたヒマヤ杉の苗木が、なんと駒込の主とばかりに聳えているのです。四十数年の時の流れがもたらす驚きです。

これはまた私たちの教団の成長の今昔でもあるのです。十数本の苗木とも言える教会から、全国に分布する教団と成長しました。そのために多くの伝道者が中央聖書学校から「利鎌を持ちて勇み行かん。」主の命に従って各地に遣わされて行きました。福音宣教を使命とする私たちの教団の、成長発展のために



中央聖書学校校舎建設前の東京・駒込の本部構内一戦後間もない時期の焼跡をそのまま見ている。

学びと訓練に集中できる高度の学校が要求されている時代であります。そのため全教会をあげて兄弟姉妹の協力をお願いしたいのです。学校のために献げて下さい。あなたが一月に一杯のコーヒーを我慢して献げて下されば、多くの献身者が育つのです。祈って下さい。

北陸キャラバンに参加

専門B 神谷 恵美

三月、卒業生を送った寂しさを思う間もなく、十三日から九日間の予定で北陸へ。〈初日〉私達を引率してくださるダビデ先生と祈って出発。心配した雪道もなく、雪の白さに感動する中、眩しさの為目の痛みを訴える運転手を心配しつつ、無事宣教師館に到着。以後私達の疲れを癒してくれた福々湯とご対面。〈二日目〉全員で富山へ。そろうのトレーナーを着てトラクト配布。伝道集で証しと賛美奉仕。〈三日目〉氷見で礼拝出席。午後は氷見の英語クラスと富山の伝道集に分散。夜は氷見で合流して伝道集会。カッパの掛け軸の前で語るダビデ先生が何とも妙。今日はタンバリンで踊ったり手話賛美もしました。



メイズランドで久保田師を囲んで、5人のキャラバン隊

〈四日目〉休み。林先生ご夫妻、結樹子先生と交わりの時が持てました。やっと親しくなったダビデ先生とお別れし、少々寂しい私達。〈五・六日目〉金沢と松任に分散。体調を崩す者がいましたが、先生方の温かな配慮に支えられました。後半引率して下さる久保田先生と合流。〈七日目〉兼六園見物。午後は福岡町と伏木に分散。〈八日目〉教区SS大会で巨大迷路へ。〈九日目〉大雪の為二日間滞る事を延期。このキャラバンを通し、多くの僕達に出会えた事が感謝です。私達が何か成したのではなく、受け入れ、用いられた管器にすぎない事を教えられました。集会の為に祈り、呼びかけて下さった兄姉があつてこそその出会いばかりです。



伝道は簡単な事ではありませんが、「泣かなくてもよい」と語って下さる全能の主が共にいてくださいます。なおも主を仰いで従っていきたいと思います。

編集後記

◎ 駒込の山にも秋がやってきました。桜の花びらの代わりに、椎の実が一面に散らばっています。踏みつけて歩くとパリパリと音をたて、どこから飛んできたのか、鳩の群れが足元で楽しそうにそれをつついていきます。大東京のひと隅だとは思えないような雰囲気、涼しく秋です。

◎ 今回から新しい試みとして、頻繁に出てくる聖書の語句を、専門の先生方に、やさしく解説していただくことにしました。ギリシャ語は菊池先生に、ヘブル語はダビデ・ハイムス先生が担当して下さいます。

◎ アッセンブリー史のクラスに弓山前校長をお招きして、特別講義をしていただきました。教団の年表の行間に秘められていた数々のエピソードを、延々3時間ぶっ通して、息つく暇もなく披露して下さいました。先生の回心から献身そしてジュルゲンセン師との出会

い、聖霊神学校・中央聖書学校の設立と教団創立などが歴史としてではなく、生きた証言として聞く者を感動させました。おかげで用意した茶菓も、先生の熱弁に置き去りにされてしまいました。

◎ ワープロよりもペン書きのレポートの方が、風情があり、学生の人柄がにじみでて、読むのも楽しいのですが、書き直し、挿入、削除、校正、検索、保存などの能率を考えると、ワープロにはかないません。日進月歩で改良されるソフトやハードの波にあおられて、埃をかぶっているワープロがどこかに眠っておりまして、学生の練習用に使わせていただければ幸いです。

(K・K)

発行・一九九二年十二月一日
事務局〒170-0033 三九一八四九二五
東京都豊島区駒込三二一五二〇
中央聖書学校
編集者 北野耕一
編集委員

随想

一步千金

菊山 和夫



先般他界した将棋の大山康晴十五世名人は「一步千金」と言った。小さな歩兵は始めのうちこそノロノロ一歩ずつ進む以外に能がないが、そのうち勝敗を分けるほどの大きな働きをする。「いっぽ千金」はそのような勝利の決め手ともなりうる一步の大切さを教えた名言である。実際、強い人ほど、歩の使い方が実にうまい。

私はこれを「いっぽ千金」と読んで、信仰の世界にあてはめている。

創生記二二章一節には、どの日本語訳にも、神がアブラハムに「わたしが示す地に行け」と語ったとあるが、ヘブライ語では「歩け」とある。しかし「歩け」なら「レフ」だけでいいのだが、このあとに「レフハ」(あなた自身で)なる単語がつながっている。この「レフ・レフハ」にはいろいろ

ろな解釈があるらしい。「あなた自身に向かつて歩け」とも読めるそうだが、私なりにこれを「神のことばのみを信じ、自分の足で大地を踏みしめて歩け」と解している。

信仰とは黙々と歩くことである。黙って従うことである。そのためにはまず自分の足を神にささげ、神のために使うことだ。献身は献足から始まるのではないだろうか。献身は健脚をもたらし、初めの力強い一步を可能にすると思う。頭だけささげて、大向こうをうならす神学論をどんなにぶつても、座しているか千鳥脚では、サタンはびくともしないだろう。

あと一步ささ踏みこめば何かが起こる。もつと単純になりきって、一步一步大地を踏みしめて行こう。歩ナシ将棋ハ負け将棋」といわれるが、信仰者は「必勝ハ歩ノ前進ニアリ」と心得たい。大きな飛躍は小さな一步から、てある。つくづく「いっぽ千金」だと思ふ。

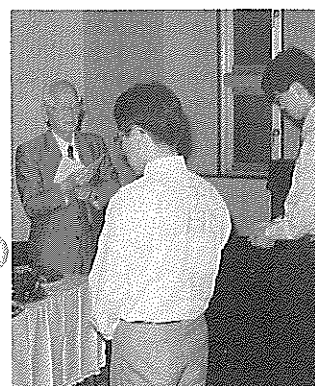
創立記念日の聖餐式

専門 A 小泉 智

六月一日、中央聖書学校の創立記念日に、名誉校長弓山喜代馬師を迎えて、チャペルにて幸いな聖餐式がもたれた。

自由な形での礼拝という面が強調されるあまり、形式的な一面が希薄すぎるという批判を受けがちなペンテコステ教会ですが、師は歴史的、神学的、実践的見地から、スクラメント(秘儀)の意義と重要性から説かれ、学生一同聖餐の恵みを再認識した。特に師はルター派、カルヴァン派、福音派ではない、ペンテコステ派独自の聖餐論を展開されるべきだと強調され、聖霊信仰からの聖餐論構築の必要を強くおめされた。

幸いなチャペルは、正午まで続けられ、一同時間がたつのも忘れて恵みに浸っていた。



キリスト (Χριστός)

「キリスト」は固有名詞(名字)ではなくクリオー-*χρίω*という動詞からでた言葉で「油注がれた者」という意味です。ヘブル語のメシヤをギリシャ語に訳したタイトルで和訳するなら、「救い主」です。



1950年建設された当時の中央聖書学校

全生園

基礎 B 安東 聖樹

全生園の訪問が決まり、先輩に説明を受けたのにも関わらず、訪問をするまで不安で祈りの中に備えていました。当日、全生園に行くにあいにくの雨天でありましたが、景色がよく、広々として、街のようになっているのには驚かされました。コンサートのリハーサルの後、一戸一戸訪問しましたが、普段、街中でチラシを配布するのとは異なり、喜んで招待状を受け取ってくださるのには感動しました。

コンサートも無事終了し、その後、新センターに入院している宮田さんを部屋まで送らせて頂いたのですが、その帰り道の途中、宮田さんが、全生園の訪問を始めた当初の徳木先生のことについて話して下さいました。体に触れると病気が伝染するとおそれられていた当時、自分の手を握り、ひとつの詩を歌ってくれたという話を非常に喜んで話した姿には、感銘を覚えませんでした。願わくば私も、一人の魂を心から愛する牧者になりたいと思ひながら全生園を後にしました。



全生園を訪問して

基礎 B 丸山 陽子

入学前の私は重度心身障害児の学校に勤務していた関係もあり施設伝道にはたいへん興味と重荷を持っておりましたので、まだ会ったことのないハンセン氏病の方々とのお出合いを楽しみにしていました。

当日はあいにくの雨でしたが、始めて訪れる全生園は、本当に様々な自然に囲まれて、すばらしい環境の中にありました。その花一つを見るごとに、どんな思いを込めて、園の方はこの花を育てているのだろうか、考えさせられました。



中央集会所を借りてのコンサートには、足元の悪い中、沢山の方が参加して下さい、共に神様の恵みを分かち合うことができました。コンサートが無事終わり、私はあるひとりの老人を病棟まで送っていききました。その方は全盲で足も悪く、私の肩をかって長い病棟までの道を歩きました。その道中でその方は「私は、ただこうして死ぬのを待っているだけなんです。今度皆さんが来るときには、私はもういないでしょうね。この老人が発病してからどんなに苦しい人生だったのかその一

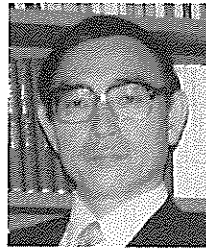
言てわかりました。「主よこの方を救って下さい。」と心のなかに叫びながら「お爺ちゃん、私はあなたのために祈りますよ。」と別れ際に言いました。「ありがとう。ありがとよ。」と何度もお礼を言う老人を見たとき、私は胸がつかまる思いがしました。

「私の心だきよくなれ。」イエス様はそう言ってハンセン氏病を癒されました。このような社会的弱者である人を愛し福音を伝えて行くことは、まさに、主の愛の心そのものであると感じました。



CBC教職修養会 の恵み

久保田 潔

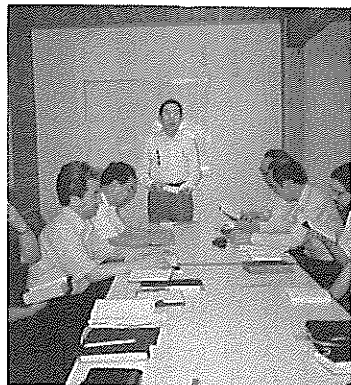


今年のCBC教職修養会は、七月六・八日の二泊三日の日程で軽井沢の恵みシャレーにおいて開催されました。今回の出席者は一二名で、関西からは出席されなかったのが少々淋しくありましたが、新校長になって張り切っている佐布師の細やかな配慮の下での楽しい修養会となりました。

もちろん遊んでばかりいたわけではなく(私個人としては、休養会でもよいと思っていますが...)ハイムス師による「ペンテコステ的旧約聖書解釈学緒論」と伊藤師による「神学教育の基準をめぐって」という二つの講演があり、それらに基づいて懇談を行いました。前者の講義に対しては、今後ペンテコ

ステ体験との合一をはかりつつペンテコステ的解釈学確立が必要であること、後者の講義からは、日本における神学教育は、教育学だけではなく聖書学、神学等の分野からのプログラムの作成が必要であること等についての活発な論議がありました。

自由時間の時には全員外に出かけ、まずアッセンブリー教団の草分けである、ジュールゲンセン師、ウエングラ師の眠っている墓を訪れて祈りを捧げ、信仰の先人達の汗と涙の宣教の姿に思いをよせました。その後で軽井沢では最も由緒ある万平ホテルのラウンジでそれぞれ飲み物を取り(どういふわけかほとんどの先生がクリームあんみつでしたが...)歓談の一時を持ちました。

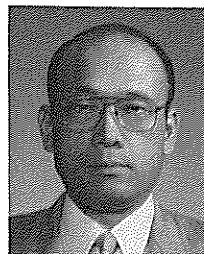


今回の修養会を通して改めて感じたことは新しい牧師達が次々に加わって、今後のCBCの前途は明るい、ということでした。

私をつくり上げた CBC

名護アッセンブリー伝道所

長尾 有二



入学して出会った信仰の友。寝食を共にした寮生活。互いに祈りあった祈禱会。同級生と机を並べて共に学んだ教室。信仰の先輩である多くの先生方から受けた講義。教会派遣や学生伝道集会での実践的学び。主が共にいてくださることを体験したチャペルやデボーション。ある意味で世から離れ、改めて自分を見つめた日。これからあゆもうとしている伝道者としての生活に思いを馳せた日。自分の弱さと愚かさと愛のなさを知り落胆した日。このような者を選んでくださった神様へ感謝と賛美をした日。等々のCBCの四年間でした。

主は、伝道者になるための準備期間として、CBCの四年間を与えてくだ

さいました。この期間に、伝道者としての使命を自覚し、その役割の重要性を認識させられました。すばらしいビジョンも与えられました。聖書の学び方について学ぶことができました。伝道は方法によるのではなく御霊によるものである事を体験させられました。キリスト者として御霊の実を結ぶ事の大切さを教えられました。こうして伝道者としての私はCBCを通してつくり上げられたのです。

駆け出しの伝道者として歩み始めている現在も、主は共にいて日々教え導き助けてくださっています。このインマヌエルなる主を信頼し、ビジョンを持って、伝道者生涯を歩み続けて生きたいと思っています。

「勤勉で怠らず、霊に燃え、主に仕えないさい。」 (ローマ二：二一)

中学聖書学校学生募集

主の御声を聞いている者よ、きたれ!

入学資格: 受洗後2年以上を経た忠実な教会員であること

住所: 豊島区駒込3-15-20

電話: 03-3918-4925

* 入学案内は所属教会牧師にお申し出ください。

分校ハイライト

山城 晴夫



関東分校は関西分校が開設されてから一年後の一九八八年にスタートし、この三月には最初の教会奉仕者のコースの卒業生三名を出しました。今も二名の学生が学んでいます。

授業は毎週、火曜日と金曜日の二日午後六時半から始まり、チャペルを始めて九時半まで行われています。学生の殆どは働きながらの学びであり、仕事との両立のためには周囲の理解と共に本人の大変な努力が求められています。しかし、学生達の学習態度は真剣で、肉体的な疲労にもかかわらず、熱心に講義を聞き、討議に参加し、質問をして知識の吸収に意欲的に取り組んでいます。また、宿題のレポートなども昼間の学生に劣らない優秀なものを提出しています。

科目は中央聖書学校のカリキュラムに基づき、今年度は新約聖書概論(青木三徳)、旧約聖書概論(菊山和夫)、個人伝道法(渡辺正晴)、教理(山城晴夫)が履修科目として上げられています。このコースで学ぶ履修単位は四年間で六四単位で、修了証書が授与され、また更に伝道者として献身しようとする者は分校での履修単位が認定されて本校へ編入することも出来ます。すでにそのケースで本校を卒業して伝道者として任地に派遣されている者もいますし、分校を経て本校で学んでいる学生が二名います。

今後はますます、多くの学生がここで学ぶようになることが、期待されています。どうぞ、関東、関西の分校が神に祝福され、多くの有為な働き人が与えられますようお祈り下さい。

罪 (ハマルティア... 'αμαρτία)

「罪」を表す言葉のうち、新約聖書で最も多く用いられているのが、この'αμαρτίαです。

この原意は「的をはずす」です。

関東分校の証し

神召キリスト教会

鈴川 嘉茂

神の御名を感謝致します。

私は、分校に学んで五年目になりました。今、私は五十四才ですが高校を卒業して一年目に救われました。この夜間分校で学び、恵の中に入れられています。今、私は神の臨在感であふれています。この私を罪の中から選び救い出して下さったイエス・キリストを心から感謝せずにはおられません。

それは、神をこの手でふれる存在感であり、インマヌエルの神を聖霊を通して実感させて頂きました。

分校で学ぶという事は、

- 1、聖書をバラバラに読んでいたことと、聖書の内容だけにとらわれていたことに対して、歴史を通して事実であることと、何のために救われたかということであり、一つの目的があるのだということです。
- 2、聖書の中に出てくる物語、例話等が一つの目的のために配列されていることが解かります。
- 3、地理、歴史をして聖書を立体的に把握する事ができます(例えば物語等に出会う場合、聖書のみでは机上のことしか思えないのが、地理、歴史を通してイメージネーションを働かせるとグット身近に感

ずる)特に他の本を読むこと(ローマ帝国とキリスト教等)によって聖書の信憑性が養われています。4、教理を学ぶことは、聖書を読む時に出てくる問題で、あやふやな所をはっきりと理解する、すると人にも理解していただける。

私が神に触れる体験をしたと申し上げましたが、それは一つの質問からでした。なぜ神はアブラハムにだけ「契約」をしたのですかの間に、君はどうして救われたのかな、この時以来、私の頭には神を忘れる事が出来ません。

アーメン

